

4日: しぶんぎ座流星群が極大



2014年1月4日午前4時の北～東の空

北

北北東

北東

東北東

東

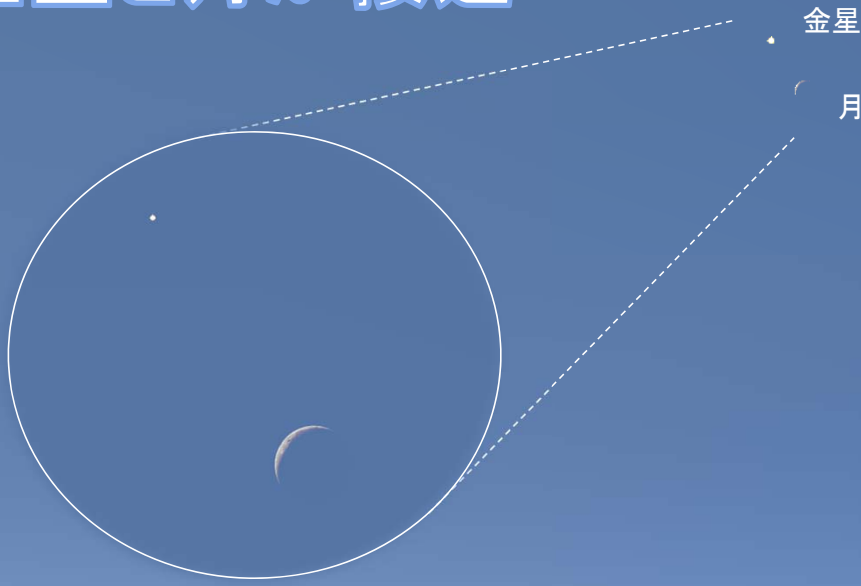
東南東

しぶんぎ座流星群は三大流星群の一つです。極大の時間が短いため、日本の夜の時間帯に極大時刻が重ならないとたくさんの流星を見ることはできません。今年は数年ぶりに条件がいいので、ぜひ一年の“天体観察はじめ”に流星を探してみたいはいかがでしょうか？ 極大は4日の午前4時頃です。**4日の夜ではありません**ので、注意してください。そして流星は空全体に流れます。どこに流れるかはわかりませんので、なるべく空を広く見渡すようにしましょう。

日	月	火	水	木	金	土
			1  初日の出 平塚:午前6時51分	2	3	4 しぶんぎ座流星群が極大 地球が近日点を通過
5 二十四節気:小寒	6	7	8 	9	10	11
12 ヒアデス星団と月が接近	13 成人の日	14	15	16  今年最小の満月	17 冬の土用の入り	18
19	20 二十四節気:大寒	21	22	23	24 	25
26	27	28	29	30	31 	

 新月
  上弦
  満月
  下弦

26日： 金星と月が接近



2月

2014年2月26日正午の南西の空

南西

2013年の夏から冬は夕方の西の空に見えていた金星。年がかわって2014年になると明け方の東の空に見えるようになります。15日は最大光度(−4.6等)となり、昼間の空でも見つけられるかもしれません。そんな金星が26日には月と接近します。昼間の金星を見つかる大チャンスです。月も細いのでやや見にくいかもしれませんが、太陽を見ないようにして探してみてください。

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4 <small>二十四節気:立春</small>	5	6	7 	8 <small>ヒアデス星団と月が接近</small>
9	10	11 <small>建国記念の日</small>	12	13	14	15  <small>金星が最大光度</small>
16	17	18	19 <small>二十四節気:雨水</small>	20	21	22 <small>土星と月が大接近</small>
23 	24	25	26 <small>金星と月が接近</small>	27	28	

 新月
  上弦
  満月
  下弦

上旬： 小惑星パラスを見よう



2014年3月2日午後8時の南の空

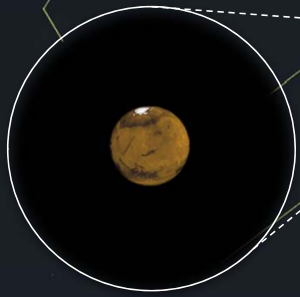
パラスは歴史上2番目に発見された小惑星です。4大小惑星の一つでもあります。あまり明るくないので見るチャンスがほとんどありませんが、2014年の3月1日～10日はうみへび座のアルファルド(オレンジ色の2等星)と双眼鏡で同じ視野に入るため見つけるチャンスです。上の星図を参考に、探してみてください。毎日見ると位置が変わって見えますよ。

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5 <small>二十四節気: 啓蟄</small>	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18 <small>春の彼岸の入り</small>	19	20	21 <small>春分の日</small> <small>二十四節気: 春分</small>	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

新月
 上弦
 満月
 下弦

4月

2014年4月14日午後9時の南東～南の空



望遠鏡で見た火星のイメージ



14日: 火星 接近

2年2カ月ごとに地球に近づく火星。今年は小接近ですが、ひときわ明るく赤い姿を夜空に見せてくれます。最接近は4月14日ですが、夏までは遠ざかる火星を楽しむことができます。4月14日には、偶然すぐ近くに満月一日前の月が見えています。満月に負けじと輝いている姿、見つけてください。この時期の火星は、月が出ていなければ夜空の中で3番目に明るい星となっています。

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4 <small>ヒアデス星団と月が接近</small>	5 <small>二十四節気:清明</small>
6	7 <small>今年最小の上弦 ふたご座λ星の星食</small>	8	9	10	11	12
13	14 <small>火星、最接近</small>	15 <small>月没帯食</small>	16	17	18	19
20 <small>二十四節気:穀雨</small>	21	22 <small>今年最大の下弦</small>	23 <small>4月こと座流星群が極大</small>	24	25	26
27	28	29 <small>昭和の日</small> <small>インド洋で金環日食</small>	30			

新月
 上弦
 満月
 下弦

5月

2014年5月25日午後7時15分頃の西～北西の空

・ 木星

高度20度

高度10度

・ 水星

下旬：
水星が見ごろ

西

西南西



西

西北西

北西

北北西

太陽系の最も内側を公転する惑星・水星。見かけ上、つねに太陽の近くにあるため、コペルニクスでさえ見たことないと言われるほどですが、年に数回あるチャンスを逃さなければ意外にかんたんに見つけられます。そして2014年、いえ、この数年で最大のチャンスの一つが5月25日の前後数日間です。日没後30分で水星の高度が15度近く、やや離れたところに木星も見えるため、見つけやすいでしょう。まだ水星を見たことないが人はお見逃しなく！

日	月	火	水	木	金	土
				1 ヒアデス星団と細い月が接近	2	3 憲法記念日
4 みどりの日	5 こどもの日 二十四節気:立夏	6 振替休日 みずがめ座エータ流星群が極大	7 	8	9	10
11	12	13	14	15 	16	17
18	19	20 やぎ座ベータ星の食	21  二十四節気:小満	22	23	24 きりん座流星群が出現?
25 水星が東方最大離角	26	27	28	29 	30	31

 新月
  上弦
  満月
  下弦

10日: 月と土星が接近



6月

6月頃から土星が見ごろを迎えます。望遠鏡で見ると環のある姿を確認でき、観望会などでは人気の天体の一つです。環の傾きは30年周期で毎年変わりますが、昨年と比べるとだいぶ開いてきて環が見やすくなりました。6月10日には月と土星が接近します。土星が空のどの星かわからない人も、この日は見つけることができるでしょう。博物館の「星を見る会」などにも参加して、環のある土星の姿、ぜひ見てみてください。

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5 変光星ミラが極大	6 二十四節気: 芒種	7
8	9	10 月と土星が接近	11 入梅	12	13 満月	14
15	16	17	18	19	20 下弦	21 二十四節気: 夏至
22	23	24	25 月と金星、ヒアデス星団が並ぶ	26	27 新月	28
29 月が本年最近	30					

● 新月 ◐ 上弦 ● 満月 ◑ 下弦

6日: セレスとベスタが大接近

7月6日午後9時の南～南西の空



7月

セレスは初めて発見された小惑星(番号1番)であり、2006年に惑星の定義が定められてからは準惑星にも分類された天体です。ベスタも初期に発見された小惑星です(番号4番)。四大小惑星のうち2つであり、7.2等と8.5等と双眼鏡があれば見ることができます。ここまでの大接近はなかなか見られません。たとえ双眼鏡で見ても点にしか見えませんが、一見の価値はあります。ちなみにベスタには探査機ドーンが2011年に到着、現在はセレスに向かって航行中です。

日	月	火	水	木	金	土
		1	2 半夏生	3	4 地球が遠日点を通過	5
6 セレスとベスタが大接近 月と火星、スピカが並ぶ	7 七夕 二十四節気:小暑	8	9	10	11	12
13 水星が西方最大離角	14	15	16	17	18	19
20	21 海の日	22 月、金星、水星が並ぶ	23 二十四節気:大暑	24	25	26
27	28 みずがめ座δ流星群が極大	29	30 やぎ座α流星群が極大	31		

新月
 上弦
 満月
 下弦

18日： 金星と木星が大接近

8月



8月18日午前4時の東の空

8月18日の早朝、金星と木星が見かけ上、大接近します。角度にして28分、これは満月の直径よりも短いのです。望遠鏡で金星と木星の縞模様、ガリレオ衛星がいっぺんに見られるでしょう。しかもプレセペ星団M44の前面での接近となりますから、双眼鏡で見ても楽しめます。前後数日間観察すると、金星と木星の位置関係が変化する様子も見られるでしょう。次の日の明け方には月とヒアデス星団が接近する様子も見ることができます。

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 <small>伝統的七夕</small>
3	4	5	6	7 <small>二十四節気：立秋</small>	8	9
10	11 <small>今年最大の満月</small>	12	13 <small>ペルセウス座流星群が極大</small>	14	15	16
17	18 <small>金星と木星が大接近</small>	19 <small>ヒアデス星団と月が接近</small>	20	21	22 <small>二十四節気：処暑</small>	23
24 <small>月、火星、土星が接近</small>	25	26	27	28	29	30
31						

新月
 上弦
 満月
 下弦

8日： 中秋の名月



9月

中秋の名月

中秋の名月とは旧暦8月15日に月を鑑賞する風習のこと。2014年は9月8日が旧暦8月15日です。中秋の名月は必ず満月になるとは限りませんが、2012年、2013年と偶然、満月が続きましたが今年は違います。満月は非常に明るく、月明かりだけで本が読めると言われます。この日はぜひ、家の中の灯りも点けずに、月明かりだけで夜を過ごしてみたいはいかがでしょうか？

日	月	火	水	木	金	土
	1 <small>二百十日</small>	2 	3	4	5	6
7	8 <small>中秋の名月 二十四節気: 白露</small>	9 	10	11	12	13
14	15 <small>敬老の日 ヒアデス星団の食</small>	16 	17	18	19	20
21	22 <small>水星が東方最大離角</small>	23 <small>秋分の日 二十四節気: 秋分</small>	24 	25	26	27
28 <small>土星食(日中)</small>	29	30				

 新月
  上弦
  満月
  下弦

10月



8日: 皆既月食

月食のはじまり 18時14.5分
 皆既食のはじまり 19時24.6分
 皆既食のおわり 20時24.5分
 月食のおわり 21時34.7分

8日の夜、月が出てすぐ月食が始まります。月がすっぽりと地球の影に入ってしまう皆既月食です。皆既月食は月が見えなくなるわけではありません。皆既になると写真のように赤銅色の月を見ることができます。これは、地球の大気で屈折した太陽の光が月まで届くからです。地球の大気中の微粒子に青い光が散乱されてしまうため、赤い月となるのです。

日	月	火	水	木	金	土
			1	2 	3	4
5	6 ガリレオ衛星の 相互食 十三夜(後の月)	7	8  皆既月食 二十四節気:寒露	9 10月りゅう座流星群 が極大	10	11
12	13 体育の日	14	15	16 	17	18
19	20	21 オリオン座流星群が 極大	22	23 二十四節気:霜降	24 	25
26	27	28	29	30	31 ガリレオ衛星の 相互食	

 新月
  上弦
  満月
  下弦

11月

午前4時25分



エウロパ

ガニメデ

午前5時10分



エウロパ

ガニメデ

26日： ガリレオ衛星の相互食

11月26日のガリレオ衛星の相互食

ガリレオ衛星とは、木星の周りを回る大きな4つの衛星のことです。木星の周りを回っているわけですから、時折、ある衛星が別の衛星を隠すことがあります。これをガリレオ衛星の相互食といいます。毎年見られるわけではなく、およそ6年に一度しか見られません。貴重な機会ですから、望遠鏡を持っている人はぜひチャレンジしてみてください。

日	月	火	水	木	金	土
						1 水星が西方最大離角
2	3 文化の日	4	5	6 おうし座南流星群が極大	7  二十四節気：立冬	8 ヒアデス星団の食
9	10	11	12	13 おうし座北流星群が極大	14	15  今年最小の下弦
16	17	18 しし座流星群が極大	19	20	21	22  二十四節気：小雪
23 勤労感謝の日 30	24 振替休日	25	26 ガリレオ衛星の相互食	27	28	29  今年最大の上弦

 新月
  上弦
  満月
  下弦

12月14日午後8時の東の空

12月



14日： ふたご座流星群が極大

2014年の最後を飾るのは、毎年恒例ふたご座流星群でしょうか。2014年は下弦の月が夜半過ぎに昇ってきますが、それまでは比較的良好な条件で観察できるでしょう。ふたご座はこの季節に一晩中見えてますので、あまり夜更かしをしなくても楽しめる流星群です。なるべく空が開けたところで見るようにしましょう。

日	月	火	水	木	金	土
	1	2 ほうおう座流星群が大出現?	3	4	5	6
7 二十四節気:大雪	8	9	10	11	12	13
14 ふたご座流星群が極大	15 ガリレオ衛星の相互食	16	17 ガリレオ衛星の相互食	18	19	20
21	22 二十四節気:冬至	23 天皇誕生日 こぐま座流星群が極大	24 ガリレオ衛星の相互食	25	26	27
28	29 ガリレオ衛星の相互食	30	31			

新月
 上弦
 満月
 下弦